

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2022年1月1日

日蓮正宗 年間方針

報恩躍進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

常に明るく正直な生活

年間実践テーマ

①真剣な勤行・唱題で  
歓喜の行動

苦難を開く

勤行・唱題

②僧俗一致の折伏で広布  
へ躍進

諦めず

最後まで

③御報恩の登山と寺院参  
詣で人材育成湯仰恋慕・朝夕の勤行  
家庭訪問・寺院参詣・

支部総登山

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2021年12月5日の広布唱題会の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日蓮上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

## ① 講中のみなさまへ

「俺の目を見ろ、何もうな」などという男らしい言葉を使ってみたい。姿や振舞いに現れる様を「如是相」という。夫婦の目はなぜか似ている。実に不思議である。大聖人は妙法尼という強信者に対し、次のような御指南をされた。「人の身は五尺、六尺であっても、魂は一尺の顔に現れ、一尺の顔に現れている魂も一寸の眼に納まっている(御書1243頁趣意)と。南無妙法蓮華経は一句、一偈の姿であるが、肝心つまり仏の魂である。題目には法華経の文字が一字も欠けずに納まるゆえに、仏法の眼目であることを譬えられたのである。大聖人は功德のことを「おおきなるさいわい」と読まれた。勤行と唱題は、必ず身の徳の姿として、その人のありのままの姿として現れる。確信の唱題に励もうではないか。今月は唱題月間である。進んで参詣に志そう。

## ② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その17)

池田会長はついに4月24日、会長職を勇退し、また同月26日には一切の責任をとって総講頭職を辞任した。当時のことについて池田名誉会長は、昭和55年4月2日、『恩師の二十三回忌に思う』と題した所感の中で、「私が展開した昭和52年の一連の指導に、発端の因があったことは事実であります」「昨年4月24日、私が会長を勇退し、合議と協調を基調とした新会則を制定し、規則の改正を図り、そのもとに、北條第4代会長の体制が誕生したのも、安定路線を具体化するためのあらわれの一つでありました」と聖教新聞に述べている通りである。池田氏の勇退および辞任から数日を経た昭和54年5月3日、創価学会では、日達上人御臨席のもと、北條新体制になってはじめての第40回本部総会が、創価大学において開催された。(次回は日達上人の御指南による学会問題の収束)

## ③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(増上慢と増長について)

傲慢な人のことを「彼は増上慢だ」とか「増長してる」とかという。増上慢という言葉は法華経方便品からきており、最高の法や証をいまだ得てないのに、これを得たかのように思い高ぶることをいう。これは釈尊の説法の座から立ち去ってしまった罪根深重の者たちのことである。増長という言葉は、四天王の一人である増長天王からきており、須弥山の南方におられ、閻浮提という国土の衆生を觀察し、鬼神を引き連れその衆生を守護する諸天善神の一人である。人々の善根や威徳を増長せしめ、慢心のない者たちを守護するが故にこの名がある。本来は傲慢な者にあたる言葉ではない。増上慢の人や、俗にいう増長の者には、気がつけば寄り添う人もいない。人生には正しい仏法を知り、学び、実践する必要がある。お待ちしております。